

研 究 計 画

明治学院大学・辰井聡子

目 的

- ①プロジェクトの継続・終了に関する法的・倫理的問題に関する助言
- ②ゲノム研究のインフラとしてのバイオバンク等の整備・運営に関する調査研究

成果のイメージ

- ①プロジェクトにより得られたデータ、残存試料・データの有効利用の可能性につき、検討課題を明らかにした上で、提言をまとめる（以上は平成 22 年度終了時の報告を目指す）。
- ②わが国のゲノム疫学の推進に向けて必要なインフラを整備するという観点から、(1)わが国の現状と問題点、(2)諸外国の動向および諸外国の経験による教訓と課題、(3)諸外国との協力を含むわが国におけるバンク等構築に向けた課題と解決の方向性 の 3 点を主たる内容とする報告書をまとめる。

年次計画

○平成 20 年度

①プロジェクトの継続・終了に関する問題点の把握

プロジェクトの関係者、行政関係者に対するヒアリング調査の方法によりプロジェクトの継続・終了に関わる問題点を把握し、文献調査・研究会の開催を通じて検討課題を明確にする。

②国内における大規模バイオバンク等に関する現状および課題の把握

国内の医学系研究者や各種研究の事務担当者へのヒアリング、文献調査を通じ、国内外の問題状況を正確に把握する。アドバイスを得るため研究会を開催する（ヒアリング・意見交換、文献調査、研究会は以後の年度も継続して行う）。

○平成 21 年度・22 年度

海外調査（EU圏のBBMRI、合衆国のGAIN、P3G等のほか、OECD等の国際機関の関係者へのヒアリング・視察を予定）を通じ、上記課題についての国際的状況を把握し、関係者との議論を通じて問題解決の方向性を探る。

○平成 23 年度：

追加的海外調査のほか、国内の諸研究に関するヒアリング・訪問調査を行い、国内におけるバンク構築の課題に関する研究を行う。

○平成 24 年度：必要に応じ追加的に調査を行い、研究成果をまとめる。

*協力のお願い 国内外の諸機関、諸プロジェクト、話を聞くべき人物に関する情報をお寄せ下さい。お願いいたします。